

東浦町の歴史に思いを馳せる

はせぶら

石浜編

明德寺川 川なのに寺の名前？

コラム「はせぶら」

東浦には意外と知らない名所がたくさんある…そこで！

歴史に思いを馳せながら町内全6地区を「ぶらり」広報情報課の職員がめぐります。



明德寺



明德寺川

明德寺川は東浦中学校や中央図書館の横を流れる川で、町の有名な川である。近くにお寺らしい建物はないのに、なぜ川の名前に「明德寺」と寺の名前がついているのだろうかと思議に思っていた。調べてみると、昔は川の近く（現在の東浦中学校体育館）に明德寺があったそうだ。

明德寺は浄土宗、京都の知恩院の末寺で心誉秀山を開基として創建されたと伝えられている。創建当時、川に近い場所にあったため、水害によりお堂や什器が流失する被害があり、現在地の高台で眺望の良い場所に再建された。

200年以上も続いた「水争い」

その昔、明德寺川は緒川では「下の川」石浜では「境川」と呼ばれていた。江戸時代に下流域で新田開発が盛んになると水不足が深刻になり、緒川村と石浜村では明德寺川の水の取り合いが絶えなかったという。どちらかの村が池を作ったり、用水路を作ったりするたびに、奉行や代官に物申していたそうだ。明治20年に舟木池と明治池の用水路ができるまで繰り返された歴史に残る長期戦だ。



当時は石浜村と生路村が合併し、生浜村といった。原恭一の墓碑にも生浜学校と書かれている。



明德寺境内にある原恭一の墓

明德寺ゆかりの人が教師に明治8年に石浜学校が開設され、教師は明德寺の僧の弟子で当時28歳の青年だった。後に僧から一般人に戻り、原恭一※と名乗ったという。そして、石浜村で15年間、青年などを教育した。今でも明德寺境内に、教え子たちが立てたといわれている原恭一の墓がある。

今でも皆さんの憩いの場として大切な明德寺川。次にまた石浜を歩くときは、水争いの形跡をたどってみるのはいかがと思うと楽しみである。

※原恭一：教師。明治14年に学校敷地を買収し、明治16年に石浜学校新校舎を完成させた。その後村民の有志により、夜学校「以文社」が開設され青年の教育を始めた。

参考 発行 町教育委員会

・改訂 東浦歴史散歩
・東浦歴史の証人たち
（東浦文化財ガイドマップ）